

すま しょうがいしゃ ちいきせいかつ しえんせんたー つうしん
すま障害者地域生活支援センター通信 第5号

まちのそら

発行:平成18年7月1日

〒654-0023 神戸市須磨区戒町3-5-1

E-mail : shien-center@suma-shakyo.or.jp

☎078-735-3833/FAX078-735-3834

URL : <http://suma-net.org/>

もくじ

巻頭所感	1
まちかど講座からの発信	2
まゆみのキャンパスライフ~Part3	4
作業所探訪 Vol.3「友が丘作業所」	5
7月のまちかど情報《講座・ギャラリー》	6
イラスト 松本絵里奈(垂水養護高等部)	



『グッド、グッド』

すま障害者地域生活支援センター
所長 瀬戸 昭

『盲導犬クイールを育てた訓練士』（多和田悟著 文芸春秋）の本を読んだ。
犬を叱らない。褒めて褒めて、訓練を楽しい遊びとしてとらえさせるのが多和田流の訓練法といわれている。彼は童顔で笑顔を絶やさない。



「私の盲導犬訓練とは、要するに『グッド』を教えること。頭を撫でたり、胸をポンポンと叩いてやって『グッド、グッド』と、こうするとグッドなんだよと。グッドと褒めてもらえるのはどちらなのか、それを犬に選ばせる」

いつだって仕事は楽しい。だから尻尾を振りながら歩く。それが彼の育てた盲導犬の特徴なのだ。「ハッピー ウォーク」仕事でも楽しそうに尻尾を振っている。それでいて、視覚障害者を安全にきちんと誘導している。



多和田流の訓練法を読んで、沖縄旅行のことを思い出した。青い海、豊かな陽光、温暖な土地柄の中で、植物が驚くほど伸び伸びと育っている。暖かさが生物を生き生きと育てているのだなあと、つくづく感じさせられた。



障害者自立支援法が施行されつつあるが、いっこうに先が見えてこない。市の担当者の苦勞が思いやられるが、現場の事業者、利用者は不安にさらされている。

今の厚生労働省のやり方は、まるで冷たい北風流だ。新しい枠を決めて、それに当てはまらなければ認めないという。なぜ、もう少し時間をかけてくれないのか。今まで努力して築きあげてきたものを、大切にしてくれないのか。

障害者自立支援法の理念にふさわしく、その施行の道筋も事業者、利用者支援するものであってほしい。多和田流の暖かいものであってほしい。



まちかど講座からの発信

支援センターでは、地域啓発活動の一つとして、「いたやど・まちかど講座」を開催しています。福祉の様々な分野で活躍されておられる方々から、毎回貴重なお話をうかがってきました。その内容の一部をご紹介します。

2004年9月25日 『笑顔で握手…子どもたちと共に育つ』 馬場 洋子さん
(市立盲学校英語科教員)

かなり意識の改善はされてきてはいますが、障害を持っていると、まだ「何も出来ない人」というふうにみられてしまうことがあります。

何も出来ない人と見られるのは、やはり辛いです。障害をもっていても、社会の一員として何か出来ることをしたいというのが私の思いです。

頑張れば出来るけど、かえって人の手を煩わせてしまうから、これはお願いしようかなとか。やはり、「どこまでサポートが必要なのか」を明確にしていくことが、障害のある人が、社会に出て行く上では必要なのではないかと思います。難しいですが、永遠の課題だと思います。



2004年12月18日 『見てみて！あたしんち～私的家族論・介護論～』
宮本 雅代さん
(芦屋市役所保健福祉部児童課主査)

「発病してからは、時間がゆっくり流れているので、いろんなものが見えます。そこにはたくさんのお話が隠されています。確実に言えることは、時間の波におぼれるような不安から開放されたことです」

(ALSを発症したパートナー西村隆さんのエッセー『神様がくれた弱さとほほえみ』
フォレストブックスより)

多分病気の人、障害を持って他の方たちよりペースの遅い方というのは、周りの時間の流れの速さに圧倒されてしまって、そこから焦りや苛立ちが生まれてくると思うのです。時間の呪縛・束縛から解放されるということは、ひょっとしたら一つのキーワードかもしれないと感じます。

2005年3月5日 『基礎からまなぶ知的障害』松生 ^{ゆたか} 胖 さん
 (知的障害者更生施設「こんにちが丘」施設長)

見えないものに思いを寄せるということを、ちょっと私たちが忘れてしまっている。
 例えば、電車で障害のある方に出会ったとき、「身体が不自由かもしれないが、けれど足を引
 きずりながらも電車を降りていかれた。階段大丈夫かな？エスカレーターがここであれば良い
 けど、なかったら危ないやろなあ。」そういうことをちょっと思うだけで、随分とその方に対
 する偏見や差別という意識はなくなると思う。

確かに、知的な遅れが見られますと言われて生まれたかもしれないけれど、時間をかければ必
 ず皆伸びるんです。それは周りから見れば、遅々たる歩みかもしれない。
 でも、それは周りの人が測っていることであり、その人なりに少しずつ経験を積んで成長して
 いるんです。

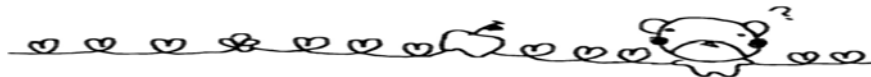


2006年1月28日 『アルコール依存症を学ぶ～飲まないで生きる～』
 梶山 都志夫さん
 (小規模作業所「ぼちぼちはうす」所長)

お酒をやめるには、自助グループ(AA、断酒会)へ行って自分の話をし、話しをきく以外
 方法はないといわれています。体の調子を整えるため通院も大事です。でも、通院だけではや
 められません。医師も自助グループへの参加を勧めます。

自助グループでは、そこで知った個人のプライバシーを他所でもさらさない、これだけが大き
 なルールです。だから隠し事はしない。本当は隠しておきたい話も隠さず話すことで、自分が
 楽になる。すると、飲酒欲求も楽になるんですね。

自助グループへ行かない人を、1人で違和感無く参加できるまでつないでいくこと。それが
 うちの作業所の意義ではないかと思っています。



2006年4月22日 『きこえないということ』鈴木 奈麻美さん
 (兵庫県聴覚障害者協会 理事)

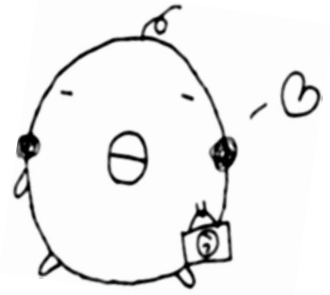
私は、生後8ヶ月の時の高熱が元で聴覚に障害をもちました。母は、医師から「障害があるこ
 とに悩む前に、この子のためになることをしなさい」と言われたことで、前向きになれたよう
 です。

私が学校から帰ってくると、発音の練習と単語の暗記。「これは何?」「もう1度」毎日欠かさ
 ことはありませんでした。

当時は、何でここまでするのだろうと思いました。けれど、日常のあらゆる面で学んだことが
 生かされる瞬間を感じ、母に感謝します。同時に、教育は本当に大切だなと思います。

障害者が当たり前のくらしを実現していくためには、皆さんに“共同の追及者・共同の実践
 者”になってほしいと思います。障害のある方が困っておられることを、どう解決できるか、
 ご本人と同じ感覚で考え、行動を一緒に起こしてほしいです。

まゆみの キャンパスライフ ~Part 3



松本 まゆみ (20歳)

♪みなさんお元気ですか♪

大学2年生になりました、松本まゆみです。
バタバタ忙しい毎日を送っているうちにもう2年になってしまいました。

♪新しいことに挑戦♪

最近、部活に入ろうかと悩んでいます。勉強もちゃんとまじめに出来てないのに・・・
なのですが、1年して少し大学にも慣れ、少し調子にのっています(笑)

関学の中に“総部放送局”という部があります。大学の部活というのはサークルと違ってやっぱり厳しいそうです。でも、やってみたいんです！！

高校3年間放送部をしていたこともあって、やっぱり放送からは離れることができませんでした。まだ見学の身なのでどうなるか分かりませんが・・・

放送局にはアナウンス・制作・ドラマ・報道・技術の5つのパートがあり、私は音編集やビデオ編集などが出来る、技術のパートに入りたいと思っています。まだこれからの話なのでまた機会があればこのキャンパスライフ4で松本と部活についてお伝えしようと思っています。

♪祝・ハタチ♪

そして、ついに6月4日で誕生日を迎え、二十歳になりましたー。まあ二十歳になったからといって一気に何かが変わるわけではないのですが、じわじわ大人なんだなあと思いつつある今日このごろです。

高校の友達や後輩に会ったりすると、「月日は流れてる」と感じます。いつもは毎日毎日がいっぱいいっぱいよく分からないのですが、ある時ふと、こんな頃もあったなと思うとき「時間は進んでるんだな」と思います。こんなこと言うからおばさんと言われてしまうのですが。



友達からメールが来ると、大体は最後に「二十歳になったし、おばさんだね」的な言葉が書かれへこんでいます。が、友達だって何ヶ月かしたら二十歳じゃんと言いつつ、母に「あんたがおばさんなら私はどうなるの」と言われつつ、二十歳の私がスタートしました。

では、またお会いしましょう☆



小規模作業所探訪 vol.3

友が丘作業所

第3回目は、小規模通所授産施設・社会福祉法人クローバーの会「友が丘作業所」をご紹介します。

歩み 「友が丘作業所」の前史は、神田絹枝さんの知的障がいのある娘さんが中学3年のときから。神田さんは1986年友が丘の自宅を開放して、知的障がいのある女の子が5名集まって、紙漉きでの葉書づくり、広告紙を使ってのかごづくり、さをり織り、食事づくりなどを始めました。そして翌年、「クローバーの会」を立ち上げ、活動を知ってもらうために「クローバーつうしん」第1号を88年1月に発行。そこにはこう書かれています。「“1人では何もできない子どもたちでも、5人集まったら何かできるかもしれない・・・”そんな希望を持った母親が何度も何度も話し合って“親子の願いを実現するためには地域の中にささやかな作業所を作ることが必要だ”という考えにたどりつきました。」支援の輪は次第に広がり「支える会」発足。作業所の土台づくりにお金を募るため、チャリティーコンサート・バザー・展示会等いろんなことをしたそうです。当時10名以上でないと作業所ができず補助金がおりになかったため、市役所にも何度も何度も足を運び、5人以上で作業所の認可がおりるようになり、91年3月3日現在の場所で平屋のプレハブ住宅で、小規模作業所としてスタート。そして震災でプレハブが傾いてしまったため、ライオンズクラブ国際協会が2階建て259㎡の立派な建物を立て寄贈してくれたのです。神田さんは言います。「たくさんの方々を支えられてきたのです。」



紹介 「友が丘作業所」では12名の女性が月・星・花の3班に分かれて、焼き菓子作り・さをり織り・昼食づくりをしています。焼き菓子はパウンドケーキ・マドレーヌとクッキー、本物の素材を使い15年の歴史のあるケーキは美味しいと評判です。近所の「すこやか友が丘」内の喫茶軽食「しゃべりーな」にも置かれていて、大好評で地域の皆様に愛されています。

また、さをり織りは、様々な素材と色の糸から自由な心の動きと感性で織り上げたもので、カバン・ポーチ・マフラー・ペンケースなど、その作品は実に美しく大人気です。

メンバーは、9時に出勤、30分朝の会をして、2時間作業、12時から13時半まで昼食・掃除・休憩、そしてまた2時間近く作業をして、ティータイムのあと16時に帰宅します。

利用者の方の声 クラシック音楽を聴きながら、さをり織りをしている利用者の方数名にお話を伺いました。みなさん、少し恥ずかしがりながらも一生懸命話してくださいました。「さをり、ケーキをつくるのが大好きです。楽しみにしています」「ケーキづくりが一番好きです。さをりも好き。注文が多くて忙しいです」「お給料を貯めて沖縄旅行に行ったりしています」「クラシック音楽が大好きです。いつも聴きながらさをりを織っています♪」。みなさん、作業のときは真剣そのもの。でも、明るい笑顔もとっても印象的でした。お仕事中にインタビューに答えてくださって、ありがとうございます。

自立支援法が施行されて 話題が障害者自立支援法に及ぶと神田さんの表情が曇りました。個別給付を受けられる施設に移行するためには20名以上という定員要件があるからです。「この要件を10名以上に緩和してもらわなければ、施設運営が成り立たず、今後が不安ですが障害を持った人たちが地域の中で自立した生活を営むことができるよう援助していきたいと思います。」と結ばれました。



☆ホームページにて、製品・活動情報発信中です☆

(<http://www.hi-net.zaq.ne.jp/bubym004/>)

住所 〒654-0142 須磨区友が丘5-5

電話・FAX 795-4078

第8回 いたやど・まちかど講座

考えてみませんか? ~知的障害・身体障害~

お 話 : 植戸 貴子さん (神戸女子大学健康福祉学科 助教授)
 と き : 平成18年7月15日 (土)
 14:00~15:30
 と ころ : すま障害者地域生活支援センター
 (地下鉄・山陽板宿駅 南④出口徒歩2分)
 定 員 : 20名
 申込み : ☎735-3833 / FAX735-3834



まちかどギャラリー 通年企画

「みて!みて!さわって! 作業所製品」

支援センターでは、ネットワーク参加作業所の自主製品を展示販売しています

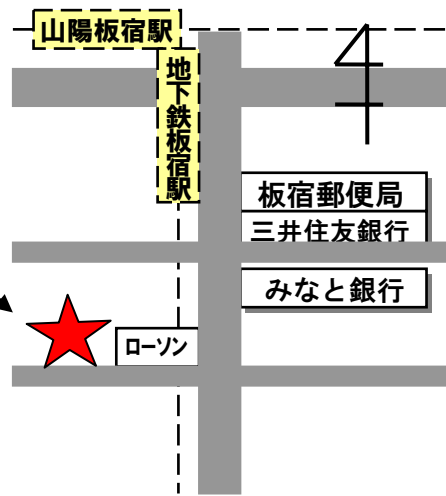
「どんなものを作っているの?」「ちょっと興味があるんだけど・・・」

センターの開所時間内であれば、いつでもご覧いただけます。お気軽にお立ち寄りください!

期間 : 2006年 4月~12月
 時間 : 平日 9:00~19:00
 土日・祝日 9:00~17:00

すま支援センターの事業内容

- * 地域生活に必要な制度やサービスの情報提供や、利用のお手伝い。
- * ささまざまな内容のご相談の受付。
- * 自立支援法の相談・受付・調査。
- * ピアカウンセリングの実施。
- * 地域啓発事業の実施
(まちかど講座・まちかどギャラリー)



編集後記



眩しい日差しと、真っ青な空が気持ちの良い季節になりました。皆さんお休みの日には、海や山に元気にお出かけでしょうか。

4月から編集担当となりました。未熟者ですが、たくさんの方に支えられながら、気持ちはいつでも前向き、明るく頑張ります。よろしくお願ひします! (T)